

父母について 平政20年12月23日

西東京本部浜田山支部 玉井 大貴

ぼくは白おびのときこう思っていました。

お父さんはきびしく何で注意するのと思っていました。緑おびぐらいできびしく注意するのがなんとなくわかってきました。でもまだきびしく注意するのかまだかんぜんにはわかっていませんでした。茶色おびになってはじめてなんできびしく注意するかがわかりました。きびしく注意するのはぼくが自分にきびしい子になってほしいからきびしく注意しているんだとわかりました。けれどまだお父さんがこわいという気もちがあります。だから黒おびをとるときその気もちはなくしたいと思います。お父さんがぼくに自分にきびしい子になってほしいというお父さんの気もちをうらぎらないようになんがなりたいと思います。それは空手でも何でも同じです。でもお父さんは家にいるときはすごくやさしいです。しかもおもしろいです。だからお父さんのことは大好きです。

お母さんはいつもごはんをつくってくれたり、せんたくをやってくれたりやさしいです。でも水色おびのときはへいきでおかあさんばかりにはたらかせていました。さらにごはんが食べられることやせんたくしてふくがキレイなのもありがたいのにそれがあたりまえとっていました。むらさきおびぐらいであたりまえじゃないということがわかりました。なぜならお母さんがびょうきのときやにんぷのときははたらけないからです。しかも自分でおてつだいをしたりしなきゃいけないということもわかりました。しかも空手がはやくいけることだっておなかいっぱいごはんがたべられることもお父さんお母さんのおかげだからお母さんお父さんにかんしゃをしなきゃいけないということがわかりました。しかもおかあさんがぼくをうんでなかったらぼくはいませんでした。だからお父さんお母さんにかんしゃをしなきゃいけないということもわかりました。お父さんお母さんの全部にかんしゃをしなきゃいけないことをわかってくろおびになりたいです。